

JR東日本労働組合 SENDAI 情報

JR 東日本労働組合
仙台地方本部
発責：執行委員長
編集：情宣部・組織部

春闘アンケートからの申入れ交渉

仙台地本は8月27日、2021春闘アンケートから組合員の要求実現に向け2つの申入れについて交渉を行いました。

申第1号「コロナ過における労働環境の点検について」

1. 駅のお客さま用自動ドアは全て非接触式にすること。

＜会社＞赤字による予算削減により現行の設備で対応となるが、こまめな消毒作業を継続して頂きたい。

＜組合＞赤字と言え、お客さまの安全においては支出の必要がある。営業施策として、チケットレス化を図る中での一環と考える。来月から仙台支社は新社屋になり、最新型の非接触型のエレベーターが設置になると聞いている。社員の健康を守ると同じく、お客さまの健康、安全について予算を充てて行くべきである。今後、新しい設備では非接触型が導入されると思うが、古い設備の更新についても目を向けて欲しい。

2. 業務委託会社へのコロナ対策については、JR 本体が主導となり、一体となった対応とし、備品についても同様に貸与すること。

＜会社＞委託会社としての考え方に基づいての対策の為、本体として言える物ではない。仙台駅でのマスク、消毒液について、以前は不足していた時期もあったが、現在は、マスクにおいては枚数の制限はない。消毒液も滞りなく設置されている。仮に不足した場合、要請があれば本体から補充を行う。

＜組合＞要請先はどこか。

＜会社＞危機管理室か各主管となる。

＜組合＞テクノサービスで「コロナ対策コンテスト」を行ったが、対策を社員にまかせるのではなく、会社が率先し主導すべきなのは。

＜会社＞丸投げするつもりはなく、社員の意識向上を図ったものだろう。コロナ対策でこれが完璧だと言うものではなく、個人個人の考えを出し合い意識していくことが大事である。

＜組合＞JEPS（山形事務センター）は窓が無く、入ロドアを解放し換気を行っている。空気清浄機を設置して頂きたい。

＜会社＞現在の仮仙台支社（SS30）も窓はない。決められた対策を徹底して頂きたい。

＜組合＞東京本社からの出張が頻繁にあり、不安である。

2 項目続き

＜会社＞危機管理対策に則り行っている。その為、必要な出張については制限を行っていない。出張時は、スペースを取るなどの対策は取っている。ただ、リモートでのやり取りについても行っている。

＜組合＞対策は会社だけに任せていてもだめであり、組合員についても意識を持ってもらう事が大切で、労使双方で共に対策が講じられるよう行っていきたい。

＜会社＞会議はなるべくウェブで行う様にしているが、対面で行う際は出入口を開け会議室内のスペースを広く摂り密にならないようにしている。
基本的に個人個人が気を付けなければならない。組合員の方にも理解と協力をお願いしたい。

3. 感染症予防や消毒対策は、社員及び関係者が使用する全ての箇所に講ずること。特に、グループ社員、業者が出入りする箇所については全てに設置されたい。

＜会社＞基本、出入口と言える箇所、動線には設置している。特定の人だけが出入りしている裏口と言われるような箇所には設置していないが、できる限り設置はしている。

＜組合＞設置できない箇所は、封鎖すべきなのでは。

＜会社＞設置されていない箇所から入ったとしても、各部屋には設置されている。その他、対策では、掲示物に工夫や、内容の更新を行っている。

＜組合＞今後も、啓蒙が漫然とならないように、常に更新、啓発を行って行くことが大切である。また、グループ会社と随時、意見交換を行い、足りないこと必要な事についてお互い確認し合い、社員、お客さまの安全を守って行って欲しい。

申第2号「赤字下における企業活動と会社施策の点検について」

1. 現状況下、不必要な職場処遇改善は行わないこと。

＜会社＞一昨年度の予算から決定した支出であり、2020年度の決算ではない。また、指摘されている設備については、現場との打ち合わせを行ってからの配備である。支社として必要性のある物として行っている。指摘されている、除草機は、女性でも扱えるものとして配備した。是非、有効に活用して欲しい。
今年度については、厳しい判断になる物も多くなるだろう。

＜組合＞活用されていないものもあるが、予算活用の意識をさらに高く持つ必要がある。現場では、カラーコピーは使用せず、白黒で行う等、極僅かな事を行っている。グループ会社に於いても備品の使用に厳しい予算の中でやり繰りしていると聞く。しかし、全てにおいて緊縮するのではなく、必要な備品についてはしっかりと設置する等メリハリが必要だ。そういった意識を持ち今年度黒字化を目指して欲しい。

2. 各種委員会活動での超過勤務の是正、及びあり方を見直すこと。

<会社>マイプロ活動については、管理者の指示で行い、目安として1ヶ月2回、1回当たり2時間としている。管理者の判断で2時間を超える場合も認めている。社員が意欲を持って行っていることに制限はかけないが、効率性も見ていく必要もあるだろう。

<組合>職場により、ダラダラと行っている箇所があるようだ。事前に時間を決めて行った方が効率的に行える。また、若い社員から、メンバー全員が揃うときがなく、効率が悪いとも聞く。開催日を事前に設定し、メンバーが揃った所で開催できるよう環境を整えることが必要なのでは。

<会社>各社員の配布されているタブレット内のTeamsを使いオンラインで行うことができる。そういったものを活用して頂きたい。

3. イベント列車の運行に関する考えを明らかにされたい。

<会社>鉄道の魅力や、鉄道の活性化、地元の魅力発掘、鉄道のファンを作ることを目的にしている。収益以外の目的のほうが大きいと思う。また、現在、開催中の東北DCの一環としている列車もあるが、コロナ禍の影響で運休したのものもある。

4. イベント列車運行に関わるおおよその経費と、5月運行の乗車率実績を明らかにされたい。

<会社>ゴールデンウィーク中は全国的に新型コロナウイルスが拡大し、運休した列車もある。状況を見て運行している。イベント列車単体での儲けはそんなにあるものでもなく、3項での回答の想いによるものを目的としている。コロナ対策を講じながら、先を見据えた経営の一環である。

<組合>とれいゆつばさの足湯スペースの感染対策について山形車両センターに確認し、消毒対策がしっかり行われていることが分かった。イベント列車の必要性について確認がとれた。この状況を同じ認識で乗り越え、黒字化を目指したい。

5. (株)JR東日本テクノサービスは、営業所によって支給される物品に差がある。必要なものはきちんと整備し支給も統一されたい。

<会社>各会社の判断により貸与しているものである。申第1号で議論したように、本体から言う立場にない

<組合>作業で使用する反射材付安全帯が付いたアノラックを要請したが、数が揃わないと駄目だと断られた

<会社>JRで使用する作業着は、特殊性がある物が多く特注となるものがある。その為、メーカーから一定数が揃わないとできないと言われたのだろう。

<組合>グループ会社と適時意見交換を図りながら作業環境や制服(作業着)について、働きやすく、安全な作業ができるよう進めていって頂きたい。

<会社>ご意見は承った

<終>